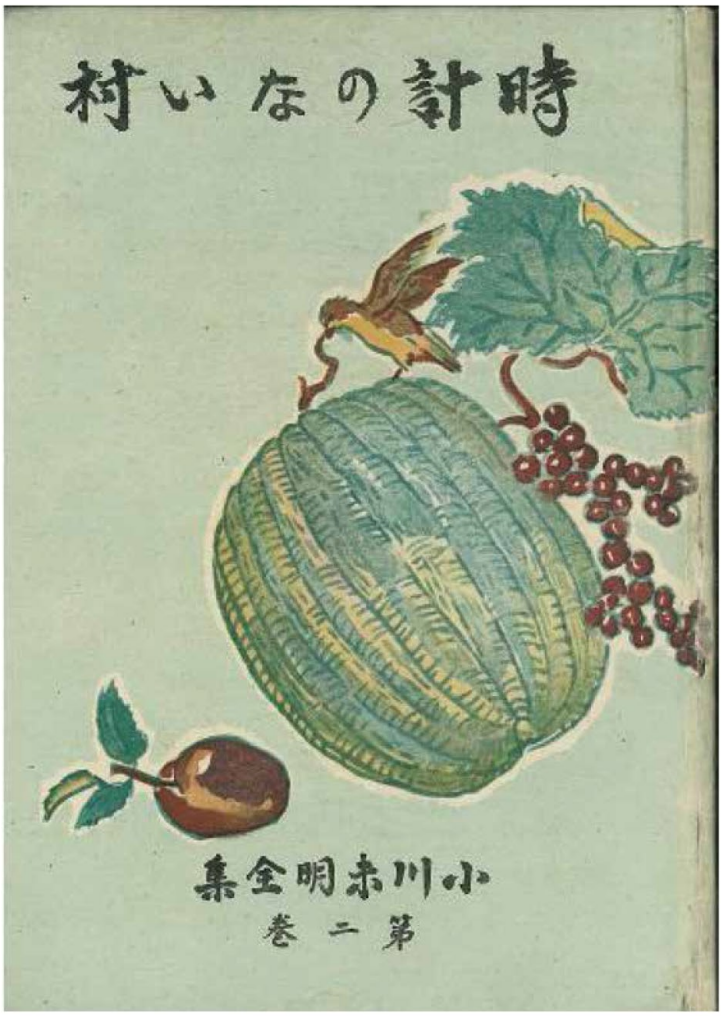
幻の全集



写真は、昭和 18 年（1943）、フタバ書院成光館から刊行された『小川未明全集』第 2 巻（第 2 回配本）の表紙です。

明治 43 年（1910）、未明は、28 歳で『おとぎばなし集 赤い船』を刊行します。未明は明治時代末から大正時代半ばまでは、小説家として名を馳せますが、大正 7 年（1918）、『星の世界から』を刊行してからは童話作家としての活躍も目立つようになります。

書かれた童話や小説は、いったん雑誌や新聞に発表され、後に童話集や小説集に収められました。童話集や小説集に収められた作品は、今度は、数次にわたって全集に収められました。最初は、大正末年に『小川未明選集』全 6 巻が刊行され、その後、昭和初年代に『未明童話集』全 5 巻が出ました。次に企画されたのが、このフタバ書院成光館版の『小川未明全集』全 22 巻でした。しかし、この全集は結局、2 冊の刊行を見ただけで、戦局悪化のため中断されました。いわば幻の全集の一巻です。

ちなみに戦後は、昭和 25 年（1950）と昭和 33 年に『小川未明童話全集』全 12 巻が刊行され、昭和 29 年に小説や評論等を収めた『小川未明作品集』全 5 巻が刊行され、それぞれが増補されるかたちで、未明の没後、『定本小川未明童話全集』全 16 巻、『定本小川未明小説全集』全 6 巻が刊行されました。

昭和 18 年（1943）当時、未明は 61 歳でした。前年に還暦を迎え、それを記念した『現代童話文学四十三人集』が同じフタバ書院成光館から刊行され、上野精養軒で祝賀会が開かれました。未明は大正 15 年（1926）以降、小説の筆を折り、童話に専念していましたから、童話の数は当時すでに 1000 編を超えていたでしょう。戦争で先行きの見えない時代状況が、未明に、自身の作品をまとめさせる誘因ともなりました。未明は、大正期、戦争に反対する立場をとっていました。「野薔薇」（「大正日日新聞」大正 9 年（1920）4 月 12 日）は反戦の思いを表明した童話です。しかし、昭和 12 年（1937）、日中戦争の勃発とともに立場を一変させます。童話「僕も戦争へ行くんだ」を未明が主宰する童話雑誌「お話の木」（昭和 12 年 10 月）に載せてからは、戦争遂行のために力を尽くすようになりました。

昭和 16 年（1941）、未明は日本少国民文化協会創立総会に参加、翌年 3 月には協会の講演会講師として山形、秋田、青森へ赴いています。この協会は、大政翼賛会に連なるものでした。戦争中の活動が評価され、昭和 19 年、未明は少国民文化協会第一回国民文化功労賞を与えられます。

写真の標題「時計のない村」は、甲乙 2 人の金持ちが、村に時計を買ってきて、どちらの時計の時刻が正しいかを争いあう未明童話です。やがて甲の時計も乙の時計も壊れ、村に平和がもどるのですが、未明はこの童話を、全集の標題にすることで何を伝えようとしたのでしょう。

当館では、小川未明の著作物を多数、所蔵しています。

〒943-0835 新潟県上越市本城町8番30号（高田図書館内）　Tel：025−523−1083　E-Mail：mimei@city.joetsu.lg.jp